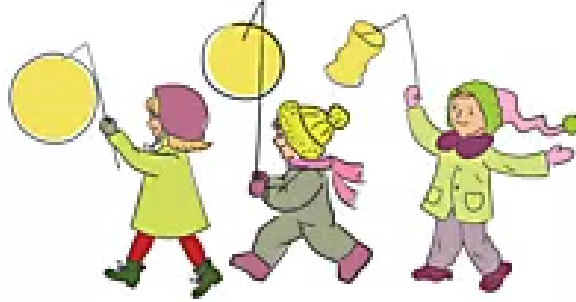


子どもも楽しめる

KINDERLEICHT



日本人の知らないドイツの祝日

「ランタン、ランタン、太陽、月、星・・・」を歌いながら、毎年11月11日の夜、ドイツの子どもたちが自分の作った提灯を手で持ってパレードに参加するって知ってた？ でも、なんでその日ドイツではパレードがあるんだろう？ それは11月11日ザンクト・マーティンの日(聖マルティヌスの日)があるからだって！

毎年11月11日には、大昔、中世に生きてたマーティンという人を記念する日で、町の中でランタンの行列があるよ。行列の先頭は白馬に乗ったマーティンの格好した役者、その後ろにランタンを持ってる子どもたちとその家族、最後に楽団が続いて伝統的な歌を歌いながら、町の決まった道を歩く。

トランペットなどの楽器の音と人々の歌声を聞くと子どもの頃を思い出すね。幼稚園や小学校の頃は授業の時に何日かかけてランタンを作って、それをザンクト・マーティンの日に得意げに持ち歩いて回ったわ。そして、パレードが終わった後、砂糖プレッツェルやヴェックマンという菓子パンを食べたり、ホットワインに似た味のポンチを飲んだりしてたなー

懐かしい！

ツッカーブレツェル
Zuckerbrezel



ヴェックマン
Weckmann



ラテルネ
Laterne





色をぬってみよう!

伝説によると、馬に乗ったマーティン兵士が冬のある日、雪の中に座った古切れしか着てなかった男を見かけた。寒さで死にかけそうな男がマーティンに助けを求めると、マーティンが自分のマントを剣で半分に切って男に渡したんだって。困った人を思いやるマーティンは教会の考えで聖人「ザンクト・マーティン」になって、11月11日が彼の聖命祝日（せいめいしゅくじつ）になった。

